令和 8 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会・技術研修会の開催報告

斜面樹林化技術協会

令和 8 年 11 月 6 日（金）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会・技術研修会が，二ノ瀬樹林化現場および京都駅近くの研修室（京都府京都市）で開催されました。当日は天候にも恵まれ，総勢 14 名での開催となりました。

午前中の現地見学会では，観光地である貴船や鞍馬へ向かう二ノ瀬バイパスで施工した斜面樹林化工法の施工 14 年後の状況を見学しました。この現場は，京都市の第 1 種景観保全地区であることから，周辺景観との調和に配慮し，現地採取種子や近畿産種子を RS センターで貯蔵し，早期発芽力検定法による品質検査結果に基づいた種子配合設計を行い，2 層吹付システムで施工しました。当日は，群落高が約 4 m に達し，ウツギ，クマノミズキ，ヌルデなどを主体とした落葉樹広葉樹と常緑広葉樹の混交林が形成され，周辺の森林景観と調和した自然回復緑化が成されている状況を確認していただきました。

午後の技術研修会では，1）京都大学大学院地球環境学堂景観生態保全論分野教授の今西先生による「地域性系統の植物による緑化のすすめ ― 遺伝的多様性に配慮した斜面樹林化 ―」と題したご講演をいただいたほか，2）当初計画の苗木植栽工から播種工に設計変更された二ノ瀬樹林化の検討経緯，3）RS センターによる準備工対応と二ノ瀬樹林化の植生推移，4）シカ不嗜好性植物を活用した斜面樹林化工法の可能性，5）斜面樹林化工法技術資料（第 9 版）と斜面樹林化工法の 5 つのバリエーションについて解説し，質疑応答しました。ネイチャーポジティブや生物多様性国家戦略 2023-2030 の推進を背景に，公共事業においても生物多様性への配慮が一層求められるようになり，国内産在来種子を安定的に供給できることや，多様な緑化技術を提供できる当協会の強みについて理解を深めていただきました。



参加者一同（左後方の施工地の前で）



技術研修会



現地説明を受ける参加者